

第七十二回句会 俳句

【高点句】

☆街灯に色を足したる新樹かな 〈安津子〉

☆補助輪を外しすいすい若葉風 〈伸子〉

☆笛をくるむ新聞愛媛版 〈美保〉

【各自一句】

・逝く犬に野ばらの棘を摘み取らむ 〈美保〉

・いつの間に垂れて香るや藤の花 〈徳人〉

・こどもの日肉屋のコロッケ売り切れて 〈明美〉

・豆飯の香りの残る仏間かな 〈眞澄〉

・サヨナラ打追う子らの背に若葉風 〈莫院〉

・葉桜や賑ひ果てし目黒川 〈一馬〉

・学寮のカーテン揺れる若葉風 〈安津子〉

・籠り居の日々や夫と豆御飯 〈伸子〉

・薰風やネモフィラの青空の青 〈緑〉

・夕暮れの新樹いのちの満ちて濃し 〈撫子〉

・子どもらの声しみわたる新樹かな 〈哲雄〉

・縦笛のテスト待ちたる窓若葉 〈郁代〉

・母の日に愚息の代わりカーネーション 〈隆司〉

・春愁やマスク顔しか知らぬ友 〈青蛙〉

*以上、4 2句（3句ずつ1 3名、2句が1名、1句が1名）より、選句は1 5名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第1位が同点で2句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載／1名は掲載辞退）